施策評価シート（令和3年度）

（基本施策の大綱）　1．快適さを支える生活基盤の向上

（基本施策）　（10）歴史文化の継承・活用

（評価担当者）
市民文化部長　辻村 俊孝

■基本施策が目指す姿

市民が、地域の歴史文化を学び、郷土に誇りを持っています。

■関連する分野別計画

■成果指標

		単位	現状値		実績値					目標値
					H29	H30	R1	R2	R3	
1	国・県・市の指定等を受ける文化財の数	件	132	H27	133	133	135	136	136	135
2	歴史博物館の利用者数	人	11,561	H27	11,314	11,062	11,080	8,596	6,924	13,000
3										
4										
5										

■市民アンケート調査

項目			現状値 [H27]	1次 [H30]	2次 [R2]	市民アンケートの考察
1	歴史や文化をいかしたまちづくりが行われている	重要度	0.81	0.75	0.71	歴史博物館の企画展の開催や鈴鹿関跡の国史跡の指定など事業を展開しているが、満足度が低い傾向にあることから、より一層、広報啓発を行う必要がある。
		満足度	▲ 0.02	▲ 0.15	▲ 0.15	
2		重要度				
		満足度				
3		重要度				
		満足度				
4		重要度				
		満足度				
5		重要度				
		満足度				

■総合評価

総合判定	左記の総合判定とした理由
B まずまず進んだ	歴史博物館の活用と地域・学校での学習の展開では、歴史博物館における企画展示等を行うとともに、地域や学校と連携した移動展示や市史料ユニットの貸し出しを進めるなど、地域の歴史や文化を学ぶ機会を提供することができている。文化財の保存・継承と活用では、天然記念物ネコギギの保全に関して、引き続き本市と協定を締結する鈴鹿高等学校との連携により飼育・繁殖を行った。また、国史跡の指定を受けた鈴鹿関跡については、第10次調査により鈴鹿関西辺築地塀の延伸を明らかにすることができたとともに、国史跡指定を記念し、オンラインによるシンポジウムを開催し、広く情報発信を行うことができた。しかしながら、コロナ禍等の影響もあり、歴史博物館の利用者数が減少していることから総合判定をBとした。

反省点・課題

鈴鹿関跡学術調査では、西城壁の一部について国史跡の指定を受けることができたが、鈴鹿関跡の全容解明に向け、遺構の連続性や古代道路の位置等、これまでに指摘されている一部不明瞭である専門的な価値付けについて、引き続き明らかにしていく必要がある。一方、歴史博物館の利用者数は、コロナ禍の影響もあり減少傾向にあるが、目標値の達成に向けては、文化財保護行政との協力により、より一層、暮らしや学習に役立つ展示の実施や、より学校との連携を強めるなど、郷土への誇りや愛着の醸成につながるよう取り組んでいく必要がある。更には、これまでのような個々の文化財等の保存重視の考え方から、地域や市民団体等との協働により、より活用が進むような検討も必要である。また、地域の伝統行事や祭礼を次世代へ継承していくことは課題であり、学校教育との連携や技術等を伝承する場の創出を行うことが必要である。

今後の展開方針

鈴鹿関跡では、過去に実施した第1次調査から第10次調査までの成果の再評価を行い、総括報告としての調査報告書を作成するとともに、市内外に対しても情報発信に努めていく。また、地域の歴史を伝える文化財については、適切に保存するとともに、その活用について検討を進める。一方、歴史博物館については、地域の歴史的な出来事や収蔵資料の再注目によるテーマを設定した展示を計画するとともに、学校との連携事業では、新たに必要なユニットを加え、地域の歴史文化を支える子どもたちに、わかりやすく紹介できる教材の提供など、引き続き、博物館と学校の連携の強化を図っていく。なお、このような取り組みを広くPRするとともに、市民の歴史や風土への理解や愛着と誇りの醸成につながるまちの記録の編さんに向けて取り組んでいく。

（施策の方向に関する評価）

施策の方向①　文化財の保存・継承と活用

（個別判定）	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できたか】
A 順調に進んだ		関宿伝建地区内の旧田中家住宅主屋縁側と井戸づ屋の修理工事を行った。ネコギギ保護増殖事業は、引き続き鈴鹿高校との連携により飼育・繁殖を行った。鈴鹿関跡は、学術調査専門委員会を3回開催し、指導・助言を得て発掘調査を実施するとともに、シンポジウムをオンライン生配信で開催した。文化財保存団体等の活動や次世代の担い手育成を支援した。		文化財を適切に保存するとともに、市民活動団体等との連携により、その活用を図ることができた。鈴鹿関跡の一部が国の史跡に指定されたことを記念したシンポジウムをオンライン生配信し、全国に情報発信することができた。文化財の保存・活用に、幅広い市民活動団体等の参画が得られた。

関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額［千円］	活動	成果
	17039	鈴鹿関跡学術調査事業	主	7,800 / 6,642	A	A
	19053	指定文化財維持管理費	標	14,384 / 12,550	A	A
	19054	歴史街道遺産活用事業	標	1,430 / 1,244	A	A
	19291	希少水生生物保護増殖事業	標	2,300 / 2,258	B	B
	19068	一般遺跡調査事業	標	11,880 / 10,890	A	A
	19119	一般事業（町並み保存費）	標	1,478 / 1,277	A	A

事業以外の取組	内容	活動	成果

施策の方向②　歴史博物館の活用と地域・学校での学習の展開

（個別判定）	活動	【施策に対し、どのような取り組みを行ったか】	評価	【左記の活動により、施策は推進できたか】
B まずまず進んだ		コロナ禍等により、歴史博物館の利用者数が減少する一方で、昼生校区に係る地域の歴史や、学校に保存されているものを資料として利活用した、移動展示「歴史博物館 IN 昼生小学校」を開催した。また、授業の進展に合わせて、来館授業、出前授業、資料貸出ユニットを通じた歴史博物館の利用を随時宣伝する活動をした。		授業の進展に合わせた随時の利用宣伝により、学校による利用のタイミングも合わせやすくなったことで、利用の予約数が増えた。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止対策により、学校からの来館授業、出前授業の予約キャンセルとなる状況が続いたが、資料貸出ユニットの利用については、例年より増加した。

関連事業	番号	事務事業の名称	区分	予算額/決算額［千円］	活動	成果
	19072	企画展開催費	標	4,370 / 3,483	A	A
				/		

事業以外の取組	内容	活動	成果